

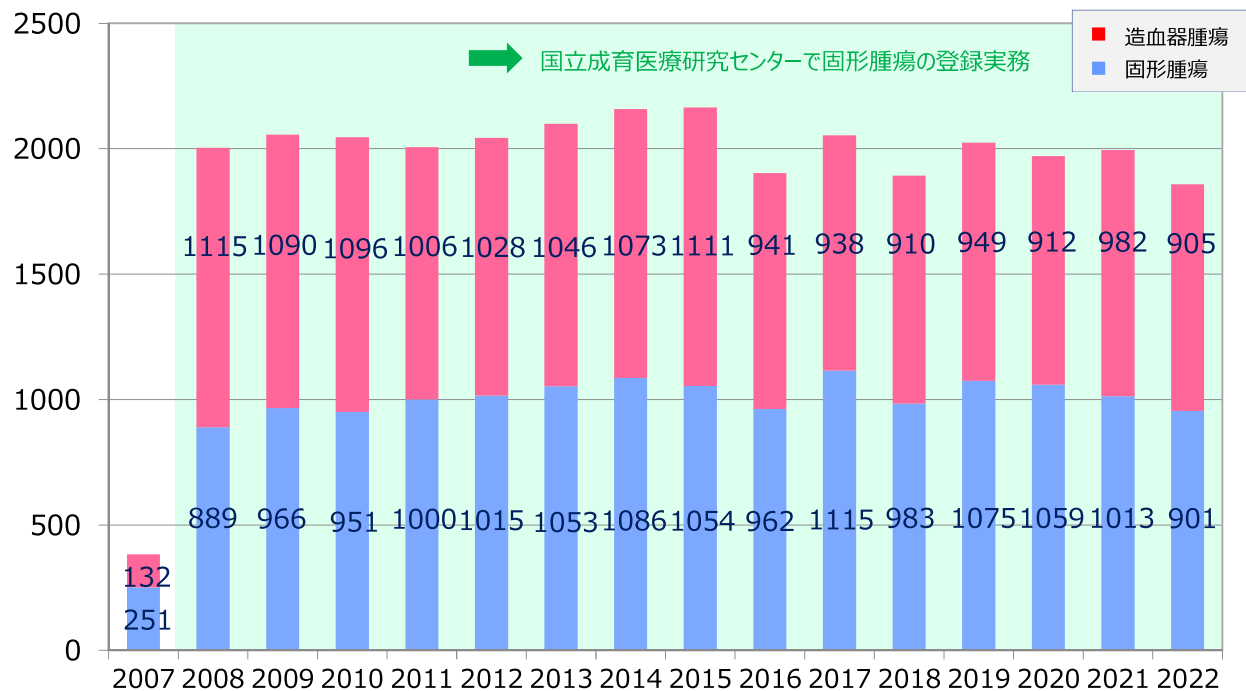
小児がん登録事業

国立成育医療研究センター
小児がんセンター 小児がんデータ管理科
加藤 実穂、瀧本 哲也

小児がん中央機関の役割

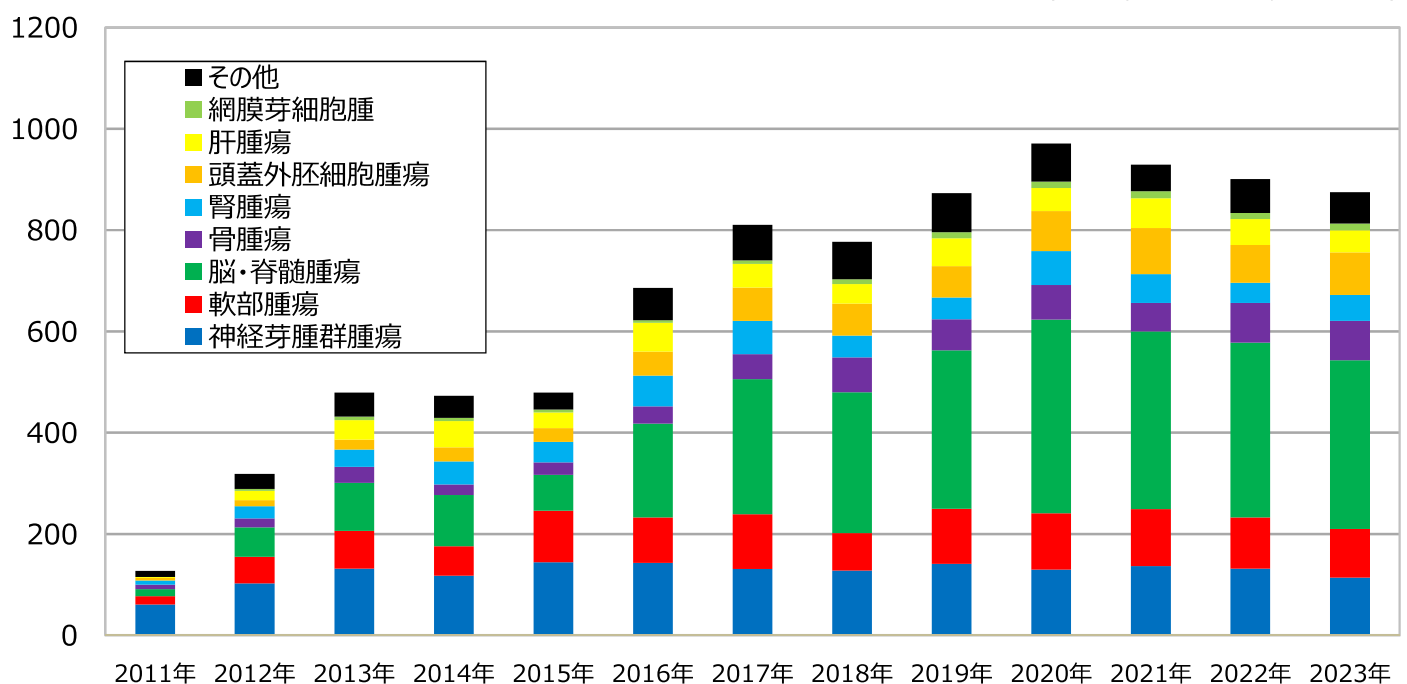
- (1) 小児/AYAがんに関する相談支援の向上に関する体制整備，発達段階に応じた長期的な支援のあり方について検討すること。
- (2) 小児/AYAがんに関する情報を収集し，広く国民に提供すること。
- (3) 全国の小児がんに関する研究開発及び臨床研究の推進・支援を行うこと。
- (4) 小児がんの治験に関する情報提供を行い，国内の連携体制を整備すること
- (5) 小児がん拠点病院等に対する中央病理診断等の診断，治療などの診療支援体制について協議すること。
- (6) 小児がん診療，相談支援や治験等に携わる者の育成に関する国内の体制整備を行うこと。
- (7) 小児がんの登録の体制の整備を行うこと。
- (8) 小児がん患者が成長等に伴いどこに移住したとしても切れ目ない長期フォローアップを受ける ことができる体制の整備を行うこと。

日本小児血液・がん学会登録：登録症例数

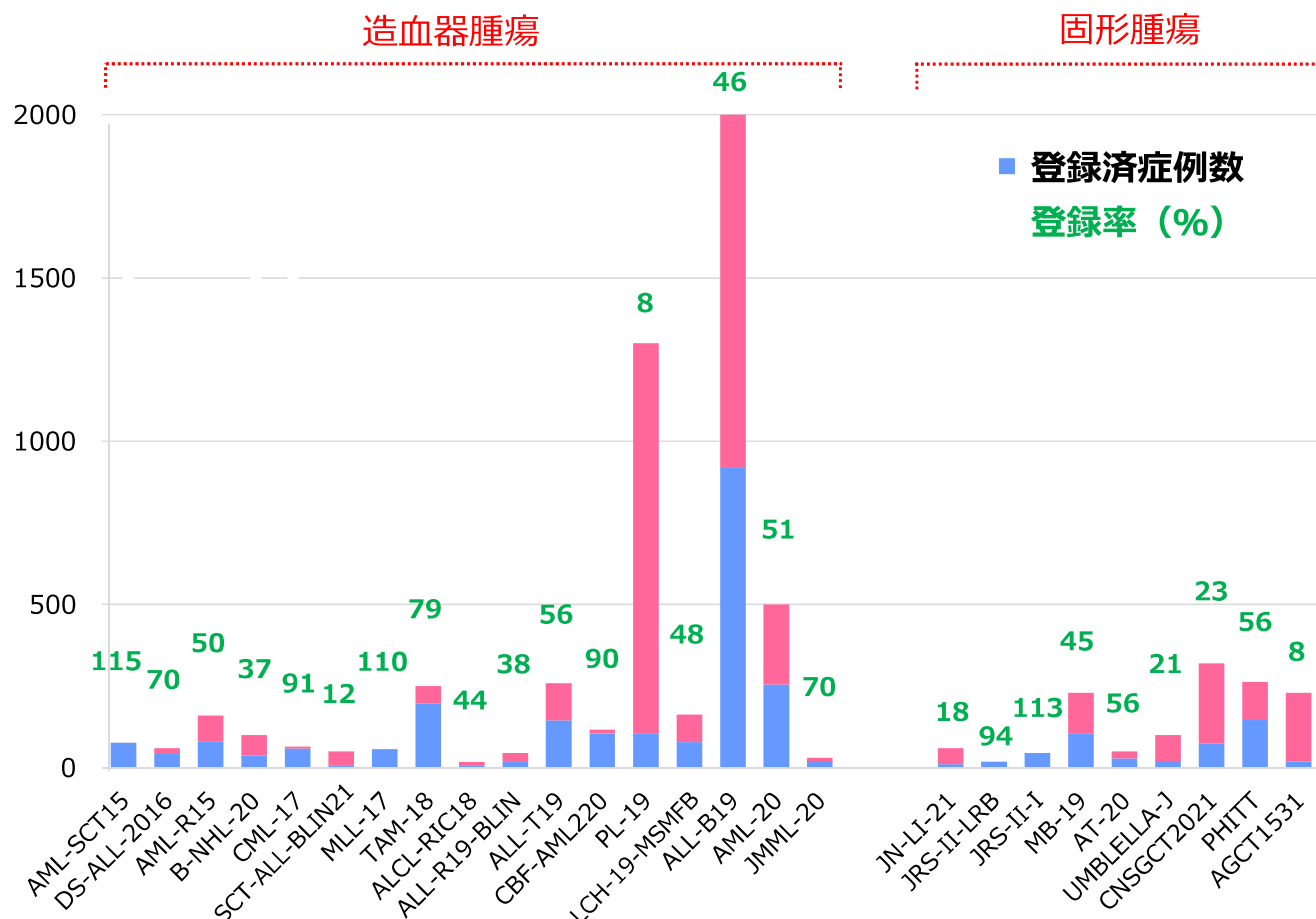


小児固形腫瘍観察研究 一次登録症例数の年次変化

(2011年1月～2023年11月30日)



JCCG臨床試験登録状況

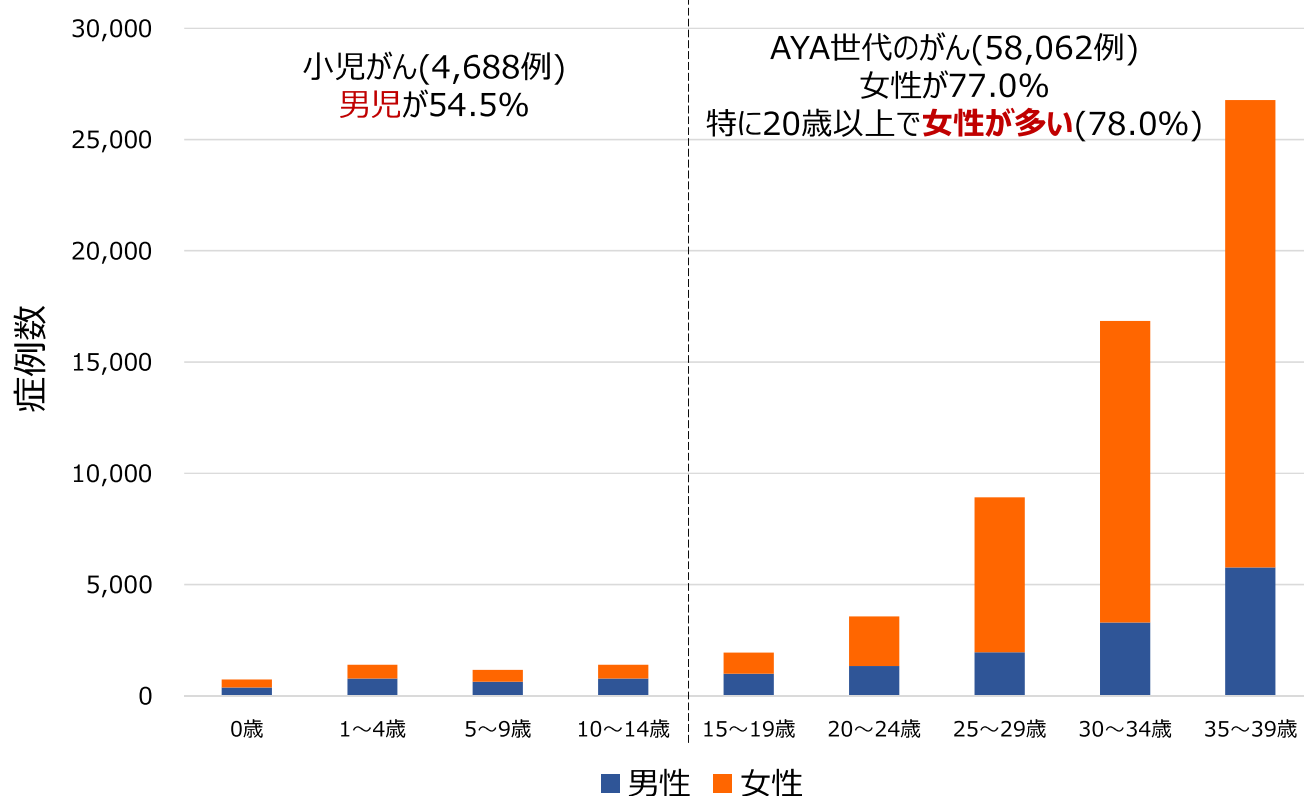


2018-2019年 院内がん登録小児AYA集計の概要

- 対象症例：2018年1月1日～2019年12月31日までに、院内がん登録実施施設で新規診断された0歳～40歳未満の症例
- 分類定義
 - 小児がん(0歳～15歳未満)：国際小児がん分類（International Classification of Childhood Cancer：ICCC）第3版/WHO2008改訂版
 - AYA世代のがん(15歳～40歳未満)：AYA Site Recode/WHO2008改訂版
- 施設種別（合計860施設、83,516例）

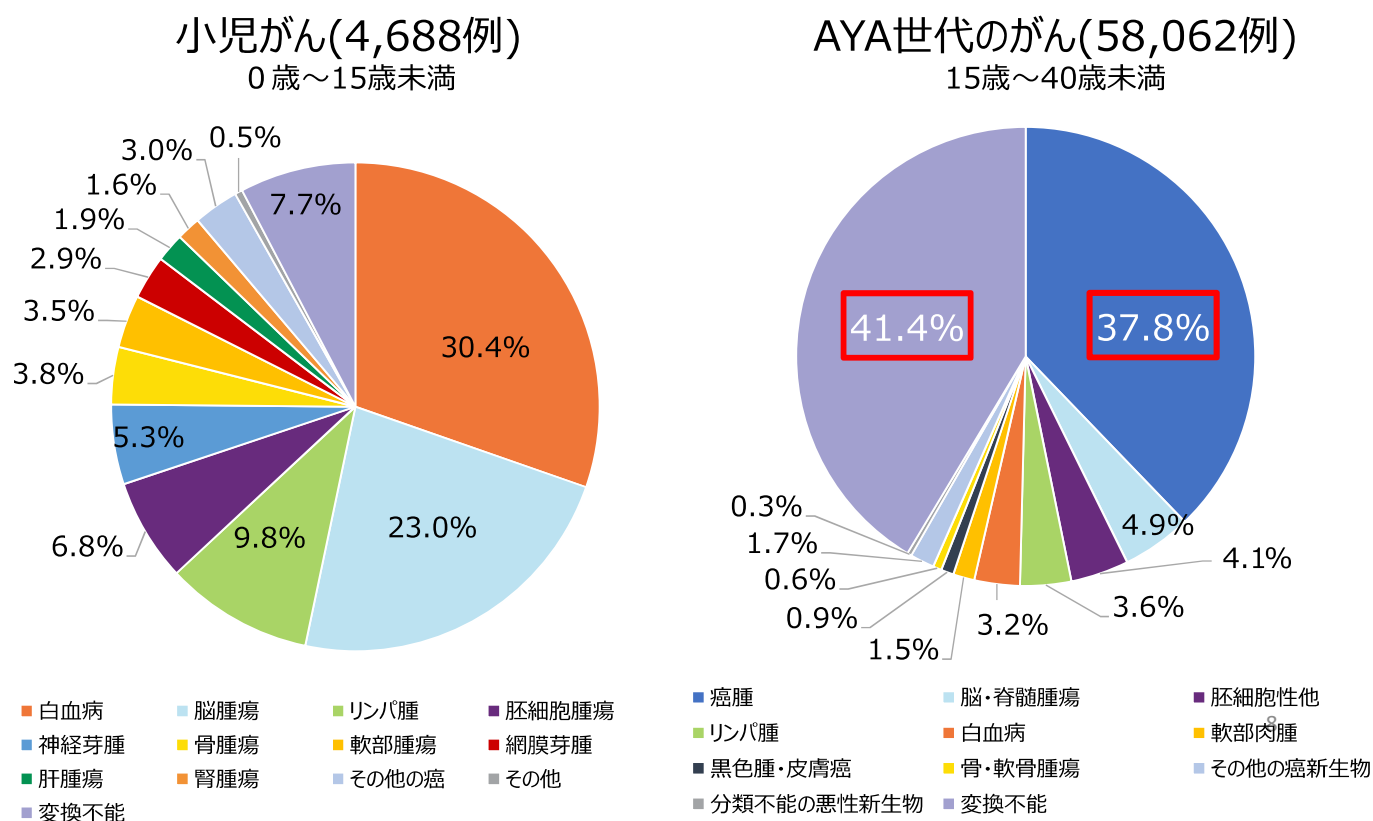
	小児がん	AYA世代のがん
小児がん拠点病院	15施設（2,050例）	15施設（3,630例）
がん診療連携拠点病院	329施設（4,236例）	435施設（56,735例）
都道府県推薦病院+任意参加病院	139施設（612例）	410施設（16,253例）

小児・AYA世代のがんは年齢により患者数の多い性別が異なる



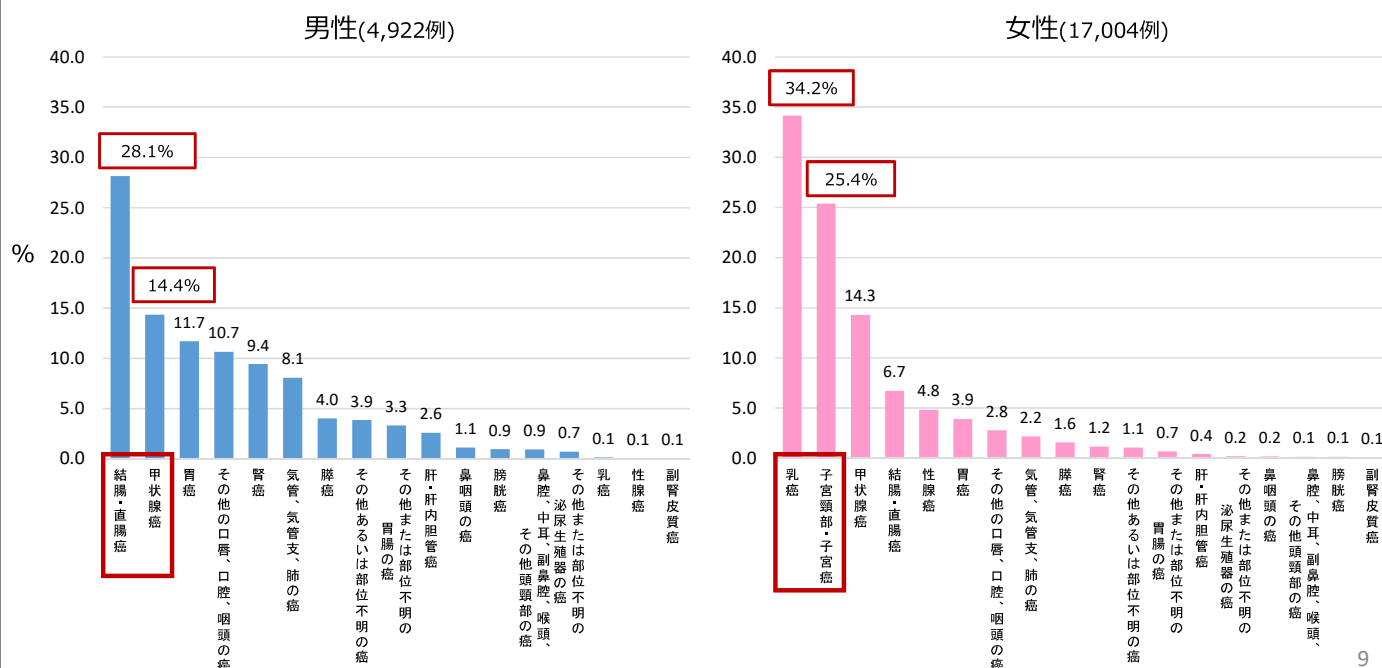
7

小児・AYA世代のがんは年齢により患者数の多いがん種が異なる



AYA世代のがんの癌腫の内訳として最多は乳癌と子宮頸部・子宮癌

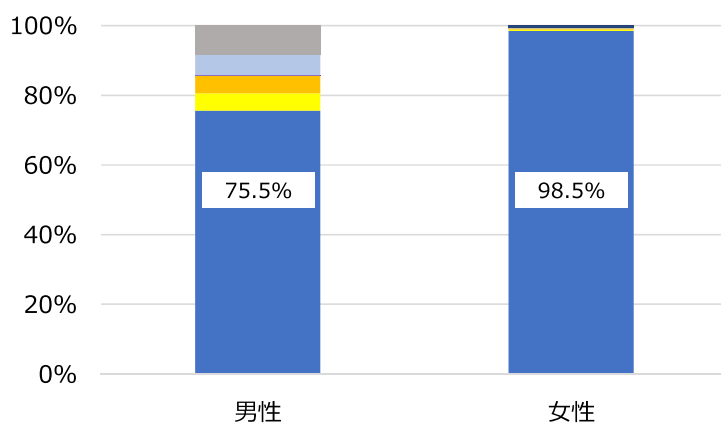
- AYA世代のがんで癌腫と分類された21,926例のうち、
乳癌 **26.5%**、子宮頸部・子宮癌 **19.7%**、甲状腺癌 14.3%
- 男性：結腸・直腸癌 28.1%、甲状腺癌 14.4%
女性：乳癌 34.2%、子宮頸部・子宮癌 25.4%



9

AYA世代のがんにおける変換不能のほとんどは癌腫(上皮内癌)

- AYA世代のがんの37.8%は癌腫(男性で36.9%、女性で38.0%)
- AYA世代のがんでは変換不能例が41.4%(24,010例)あったが、
上皮内癌を加味して再分類すると、その**97.1%は癌腫**



上皮内癌を加味して分類すると
全体の77.9%が癌腫
(男性で44.8%、女性で87.8%)

- 癌腫
- 黒色腫・皮膚癌
- 軟部肉腫
- 骨・軟骨腫瘍
- 胚細胞性他
- 変換不能
- その他の癌新生物

10

JCCG小児固形腫瘍観察研究と院内がん登録の連携

～小児神経芽腫の登録精度検証に関する多機関共同観察研究～

1. 背景

- ・ 院内がん登録データ（40歳未満）について国立がん研究センターとの協働体制が確立
- ・ 小児固形腫瘍観察研究の把握率は不十分である一方で、院内がん登録では施設間重複登録が懸念されるため、登録の精度の検証が必要
- ・ 小児固形腫瘍観察研究が収集している疾患固有の臨床情報や転帰情報を院内がん登録情報との連携の可能性の模索

2. 目的

- ・ 神経芽腫をモデルとして、登録数を2つのがん登録において比較することにより院内がん登録の精度管理および小児固形腫瘍観察研究の網羅性を検討する
- ・ 小児固形腫瘍観察研究の登録漏れ症例については追加登録を促す

5. 対象

- ・ 2020年1月1日～2022年12月31日までに、小児固形腫瘍観察研究および院内がん登録に神経芽腫として登録された20歳未満の全ての患者

3. 利用する院内がん登録データ

- ①施設名、②施設種別、③性別、④生年月日、⑤がんの診断年月日、⑥来院経路、⑦発見経緯、⑧症例区分、⑨診断時在住地域、⑩がんの局在や組織型を示すICD-O-3コード など

6. 今後の見込み

- ・ JCCG神経芽腫委員会と協同して研究計画書作成、国立がん研究センターで倫理審査
- ・ 各診療施設から、提出した院内がん登録データを突合の目的で成育に提供し、登録内容を解析に利用すること、の2点を許可（委託）する「依頼書」

まとめ

- ・ 日本小児血液・がん学会登録、小児固形腫瘍観察研究、およびJCCG固形腫瘍の臨床研究のデータ管理を例年どおり継続している。
- ・ 国立がん研究センターと共同で2018-2019年発症分の40歳未満の院内がん登録データの集計を行い公表した。
- ・ 小児固形腫瘍観察研究の登録率向上と院内がん登録の精度検証を目的とした研究を、神経芽腫をモデルとして計画中である。